

■普及所から④■

菊の

〇〇〇 苗づくり

心に安らぎを与えてくれます。

菊にはいろいろな品種があり、栽培の方法によつて周年栽培されていますが、一般的な十一月に咲く露地栽培についての苗作りを考えてみましょう。

十一月に花の咲く菊は、八月中旬ごろからの日長(短日)により、花芽が分化して大きくなっていくものです。花芽分化までの期間により草丈の長短が決まります。

草丈の長い良い花を咲かせる菊作りは、苗作りからで、さし芽の時期と茎の太いさし穂を作ることです。

菊は昔から多くの人に愛好され、今でも切り花では全生産量の約三五割を占め消費の最も多い花で、家庭でも多く作られています。また、鉢物としても親しまれ、懸崖菊や大菊として観賞され、人の

さし芽の時期は、十月咲きは五月中旬より六月上旬。十一月咲きは六月上旬より中旬がよいと思います。茎の太いさし穂を取るためには、さし芽の四十日くらい前に親株に

肥料をやり、二十より三十日前に親株を刈り込んで若い芽をふかせ、それからさし芽を取ることです。

晴天続きの日にさし穂を取り、展開葉二・三枚をつけ、長さ五・六寸に調整し、発根数の増加や発根率をよくするため、発根剤(ルートン、オキシペロン・五割粉剤など)を使用してもよいと考えます。

さし床は育苗箱やトロ箱に、細かい川砂やパーライト、またはこれらの混合土が一般に使用されています。病原菌のない保水性のある排水のよい、弱酸性の土がよいでしょう。

さし芽後は十分灌水して、穂の切り口に床土を密着させることも大切です。さし芽後の管理によつても、苗の出来のよしあしに影響します。

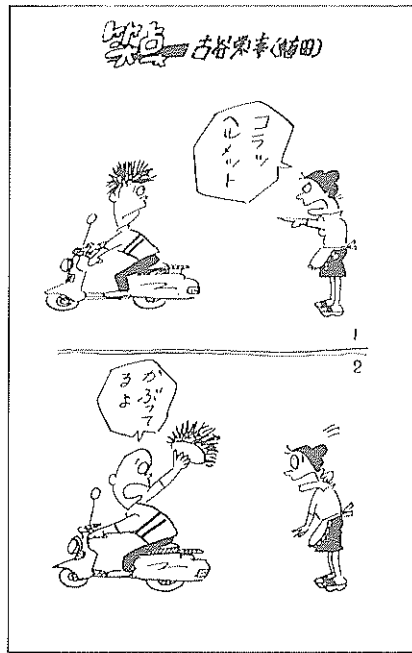
しおれないように管理を徹底しましょう。

さし芽後、約一カ月で植え付けできるよい苗ができます。よい苗を植えて、立派な花を咲かせてみましょう。

訂正

4月15日広報7ページ「市町村対抗壮年・女子駅伝」の中で、壮年の部の成績①安芸市A 11時18分1秒と掲載しましたが、おわびし、次のように訂正します。

①安芸市A 11時間14分6秒



南国歌壇

南国柳壇

南国俳壇

七十年ひたすら生きし誠と  
東ねしままの吾が髪の形

大埔 田所志な

昇級の喜び伝え母われを  
摘む吾息は父を知らざり

植野 永野美由

散りそそぐ桜吹雪の櫻うけ  
伊予路の遍路堂峰緋

三富 小笠原綾子

春の陽を散らして水の流れくる  
川止めの堰とかれし朝

立田 島田美津子

葉さくらに岩つづじ映ゆ祖谷の秘  
境 露天風呂に入れは花びら流る

植野 中司愛子

高嶺呼びし宿根カスミも出荷終え  
耕す畑地は早や初夏の色

立田 池田小村

道楽の昔を見せる隠し芸  
大相撲テレビの前にくい入りし

植田 吉本其梅

入学式ピカピカママの勢揃い  
よもぎ餅春の息吹に活気づく

西島 高橋君子

十市 沢村鶴一  
立田 清岡照子

野水仙 阿修羅の右手よりひらく  
トロボの鼻緒へのへの湿葉西風

山崎光子 (市民句会)

雛のない雛の日 風の六地蔵  
驚おちて掌中にただ枯れの雛

櫻谷雅道 ( )

白鷺に妻子のありや路の藪  
片頬に春光余る鴈の坂

秋山良恵 ( )

和紙履に買ひし詩集も春の色  
合格の家よりピアノ聞こえる  
離陸機に越されてあがく耕機

馬場左枝 (翌冬句会)

長野扇女 ( )

高村三登子 ( )

桜井美代 (天狼句会)

北川京子 ( )

中村祭生 ( )